

生ごみを使って育てた野菜を収穫しました

農場は川崎市と「明治大学と川崎市との生ごみリサイクルに係わる連携事業に関する覚書」を2013年に締結し、廃棄物減量にむけた共同事業を実施しています。そのひとつの事業として、家庭からの廃棄物減少を目的として、市内の家庭から10件のモニターを募集し、1年間にわたって家庭から出る生ごみを段ボール箱の中で堆肥化する事業を実施しています。

農場では、この生ごみ堆肥の成分分析と、その結果に基づく作物栽培を実施しています。春作では、トマト、スイートコーン、エダマメの栽培が行われ、化学肥料と遜色のない生育を示しています。

7月4日、8日、11日の3回にわたって、モニターの方々が延べ25家族、40人余が参加され、収穫体験が行われました。参加者の皆さんは、自分たちの出す生ごみを使った収穫物を手にでき、楽しそうでした。

